



老いる意味 うつ、勇気、夢

著者名:森村誠一
出版者:中央公論新社

考え方を試してみてもどうか。身体が老いても病を経験しても、心は老いてしまうわけではない。老いを恐れず、残された日々を自然体でいること。良いことも悪いこともすべて過去の出来事として水に流す。今までのことはリセットして、ゼロから始まると考える。続編やエピソードのつもりではなく「新章」にすればいい。

他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ

著者名:ブレイディみかこ
出版者:文藝春秋

“負債道徳”、ジェンダーロール、自助の精神…エンパシー(意見の異なる相手を理解する知的能力)×アナキズムが融合した新しい思想的地平がここに。

老いの福袋 あっばれ!ころばぬ先の知恵88

著者名:樋口恵子
出版者:中央公論新社



ヒグチさん88歳、「ヨタヘ口期」を明るく生きる!人生100年時代の痛快エッセイ。

戦争というもの

著者名:半藤一利
出版者:PHP研究所



開戦から80年—「歴史探偵」がどうしても後世に伝え遺したかったものとは。太平洋戦争を名言で読み解く。

ぼくのお父さん

著者名:矢部太郎
出版者:新潮社



『大家さんと僕』の著者が実の父を描く、ほのぼの感動の家族漫画。

星落ちて、なお

著者名:澤田瞳子
出版者:文藝春秋



不世出の絵師、河鍋暁斎が死んだ。残された娘のとよ(暁翠)に対し、腹違いの兄・周三郎は事あることに難癖をつけてくる。早くから養子に出されたことを逆恨みしているのかもしれない。暁斎の死によって、これまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。兄が河鍋の家を継ぐ気がないのは明白であった。

貝に続く場所にて

著者名:石沢麻依
出版者:講談社

コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合う。静謐な祈りをこめて描く鎮魂の物語。ドイツの学術都市に暮らす私の元に、震災で行方不明になったはずの友人が現れる。人を隔てる距離と時間を言葉で埋めてゆく、現実と記憶の肖像画。第64回群像新人文学賞受賞作にして、第165回芥川賞受賞作。

彼岸花が咲く島

著者名:李琴峰
出版者:文藝春秋

彼岸花の咲き乱れる砂浜に倒れ、記憶を失っていた少女は、海の向こうから来たので宇実と名付けられた。ノロに憧れる島の少女・游娜と、“女語”を習得している少年・拓慈。そして宇実は、この島の深い歴史に導かれていく。第165回芥川賞候補作。

オーバーヒート

著者名:千葉雅也
出版者:新潮社

東京から大阪に移り住み、京都で教鞭を執る哲学者。「言語は存在のクソだ!」と嘯きながら、言葉と男たちの肉体とのあいだを往復する。年下の恋人への思慕、両親の言葉、行きつけのバー、失われた生家である「大きな白い家」、折々のツイート……「僕」を取り巻く時間と人々を鮮やかに描く表題作。

テスカトリポカ

著者名:佐藤究
出版者:KADOKAWA

鬼才・佐藤究が放つ、クライムノベルの新究極、世界文学の新次元!メキシコの麻薬密売人バルミロと臓器ブローカーの末永はジャカルタで出会い、新たな闇ビジネスを実現させるため日本へ向かう。カワサキに生まれ育った少年コシモは知らぬ間に彼らの犯罪に巻き込まれていく——。第165回直木賞受賞。



スモールワールズ

著者名：一穂ミチ
出版者：講談社

まならない現実を抱えて生きる人たちの6つの物語。夫婦円満を装う主婦と、家庭に恵まれない少年。「秘密」を抱えて出戻ってきた姉とふたたび暮らす高校生の弟。初孫の誕生に喜ぶ祖母と娘家族。人知れず手紙を交わしつづける男と女。向き合うことができなかった父と子。大切なことを言えないまま別れてしまった先輩と後輩。誰かの悲しみに寄り添いながら、愛おしい喜怒哀楽を描き尽くす連作集。第74回日本推理作家協会賞短編部門候補作「ピクニック」収録。第165回直木賞候補作。

スティーブ・ジョブズ 革新的IT機器で世界をかえた実業家

著者名：林信行
出版者：学研教育出版

天才的な発想力でコンピュータと 아이폰を生み出し、人々の生活を大きく変えた。

医者が考案したコグトレ・パズル 注意力・記憶力・想像力がぐんぐんアップ！

著者名：宮口幸治
出版者：SBクリエイティブ

学習の土台づくりに認知機能を遊びながらトレーニング！

七龍神の開運お作法 ミラクルばかりの幸福な人生に変わる

著者名：望月彩楓
出版者：KADOKAWA

龍神様が喜ぶことを習慣化すれば、人生はみるみる上手く回り始めます。

おれたちの歌をうたえ

著者名：呉勝浩
出版者：文藝春秋

真っ白な雪と、死体。遠ざけたはずの過去—40年前のあの日、本当は何があったのか。いまになって届いた友からの謎かけが、元刑事の魂を、揺り動かす。長野県上田市と松本市、そして東京を舞台に紡がれる暗号ミステリーは、40年の時を経て、真実へとひと走る。友情をあきらめなかった男たちの物語。

ノラネコぐんだんアイスのくに

著者名：工藤ワコ
出版者：白泉社



ニャー、アイスおいしそう。ニャー、アイスたべたいね。第6弾は、感動巨編！！

カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥ノンフィクション・生きものって、おもしろい！

著者名：嶋田泰子
出版者：童心社

いちばん身近な鳥、カラス。ごみをちらかす、黒くて大きくてこわい…。みんなの「きらわれもの」！？でも、カラスにも、いいたいことがあるみたいです。カラスの声に、耳をかたむけてみましょうー

